

留学報告書

KMITL タイ・ラボラトリートレーニング研修

学部学科・研究科専攻	工学研究科電気電子工学専攻		留学時学年	大学院1年
留 学 先	国	タイ	大学/機関	KMITL
期 間	2025年8月6日 ～ 2025年9月4日			
	短期		計1ヶ月	

[1] 参加したコースの時間数と時間割

・科目名（受講した科目を全てご記載ください）：なし（自身の研究活動を行う）

【時間割】

時 間	月	火	水	木	金	土	日
特になし							

[2] クラス編成や授業方法について教えてください。

（クラス人数、国籍割合、担当の先生、授業方法、使用教材等）

指導教員（現地教員）の指導のもと、現地で研究活動を行った。研究の進捗に合わせて、研究紹介・中間発表・最終発表の3回の発表が設けられており、それ以外の期間は各自が自由に研究を進める形式であった。

研究室は教員を含め、全員がタイ国籍の学生で構成されており、日常のコミュニケーションおよび発表はすべて英語で行われた。

[3] 課外活動や週末の過ごし方について教えてください。

滞在中の課外活動や週末は、文化的体験と学術的活動の双方を意識して過ごした。休日には寺院や博物館を訪れ、タイ仏教の宗教観や地域の歴史・文化に触れた。また、地方の気象観測所やタイ気象局（TMD）を見学し、現地の観測方法や熱帯特有の気象現象について学ぶ機会も得た。

[4] 派遣先でよく使った施設について教えてください。（図書館、学生会館、スポーツ施設等）

学校内には20以上の食堂があり、日ごとに異なる店を巡って食文化を楽しんだ。また、タイでの研究活動は自分の専門とは異なる新しい内容であったため、関連分野の文献や資料を調べる目的で図書館を頻繁に使用した。さらに、夕方にはバレーボールなどのスポーツを行い、体育館を含むスポーツ施設も日常的に使用した。

[5] 宿舎（寮やホームステイ）での生活について教えてください。

部屋：1 部屋 1 人で使用

様子：

宿舎は 1 人 1 部屋の個室で、最近建てられた比較的新しい寮であった。室内にはシャワーやトイレ、冷蔵庫、エアコンなど、生活に必要な基本的設備が整っていた。

寮の出入りには複数のカードキーが必要であり、敷地入口・建物入口・エレベータ・各居室のそれぞれで認証を行う仕組みであった。そのためセキュリティは非常に高く、安心して生活することができた。

一方で、宿舎は線路のすぐ近くに位置しており、列車が頻繁にクラクションを鳴らしながら通過するため、特に早朝は 30 分に一度ほどの騒音で目が覚めることもあり、静かな環境とは言い難かった。

[6] 留学中に楽しかったこと、苦労したことを教えてください。

● 楽しかったこと：

最も楽しかったのは、日頃の研究テーマを離れ、タイに特化した新しい研究に取り組めたことである。私は日本で豪雨の研究を行っているが、熱帯地域の解析を経験するのは初めてであり、新鮮で刺激的な時間だった。タイではスコールと呼ばれる狭い範囲に発生する強い雨が頻繁に発生し、観測網も十分ではない。そのため、自ら雨量を観測し、最も強い降雨の時間帯と衛星観測データを比較するなど、日本では行えなかった観測を含む体験的な研究に挑戦した。

また、現地学生との交流や観光も楽しみ、博物館や気象観測所の見学は特に印象に残る貴重な経験となった。

● 苦労したこと：

言語面では大きな苦労を経験した。タイの学生の英語には独特の発音やリズムがあり、当初はほとんど理解できず筆談に頼ることも多かった。しかし、2 週間ほど経つと耳が慣れ、次第に会話も円滑に進むようになった。

生活面でも予想以上に困難を感じた。バンコクでは日本と同等、あるいはそれ以上の価格のものも多く、出費を抑える工夫が必要だった。大学の食堂やローカルマーケットを積極的に利用することで生活費を抑え、金銭的な負担を軽減できた。こうした工夫は、現地の学生や住民の生活習慣を知る貴重な機会にもなった。

[7] 留学の成果について教えてください

1) 語学力の向上：

当初は英語での会話に大きな困難を抱えていた。特に、関係代名詞を用いた複雑な構文や、適切な時制を瞬時に判断して会話に反映させることが難しく、会話のテンポについていくのに苦労した。

しかし、日々現地の学生や教員と議論を重ねる中で徐々に慣れ、留学の終盤には自然に言葉が出るようになり、以前よりも円滑に意思疎通を図ることができるようになった。特に、専門用語を交えながら研究内容を英語で継続的に議論する経験は、スピーキング力の向上に直結しただけでなく、今後の研究活動にも大いに役立つ貴重な財産となった。

2) 専門知識の向上：

留学を通じて、語学力だけでなく専門知識も深まった。

研究室では気象学や気象レーダーに関する議論が行われ、熱帯地域を対象とした解析手法を学んだ。特に、タイの対流活動や降水システム、観測データの限界を踏まえた研究手法など、日本では得難い知見を得た。また、現地学生との共同研究を通じて、自身の研究を国際的視点から見直す契機となった。

さらに、課外活動として訪問した地方気象観測所やタイ気象局（TMD）では、理論で学んだ内容を実際の観測現場に結びつける経験を得た。現地で使用されている観測機器の運用方法や、熱帯特有の気象現象に関する説明を直接受けることで、研究をより実践的に理解する力を養うことができた。

3) 自己成長など

留学を通じて、専門的な成長に加え、行動力と自信を大きく高めることができた。

特に、自ら積極的に行動し、現地の研究者にアポイントを取り、観測機器の借用や施設訪問を実現した経験は、主体性を育む契機となった。

また、異なる文化や考え方を持つ学生と協働しながら課題に取り組む中で、柔軟な発想と国際的な視野を養うことができた。

これらの経験は、今後の研究活動において確かな力として生かしていきたい。

[8] 来年度に留学を希望する学生へのアドバイスをお願いします！

語学は完璧である必要はない。現地では研究発表や日常生活を通じて積極的に話すことで、自然と語学力は向上していく。失敗を恐れず、一歩踏み出す勇気を持ってほしい。

また、現地の研究者や学生に自ら関わり、議論や交流の場を広げる行動力が、留学をより実りあるものにする。

さらに、私はタイの急速な発展の陰で貧困が共存する現実を目の当たりにし、社会の不均衡や豊かさとは何かを深く考えさせられた。留学では、研究や語学の習得にとどまらず、現地の人々の暮らしに触れ、自らの価値観を問い直す経験をしてほしい。

[9] 留学に関する費用の総額について内訳を教えてください。

内訳			金額 (留学時の日本円)
1	短期留学者のみ	旅行会社に支払った経費（授業料、フライト代他）	0
2	中期・長期留学者のみ	フライト代	
3	中期・長期留学者のみ	滞在費（寮費など）	
4	教材費		0
5	保険代		0
6	私生活における諸経費（食費・交通費・洗濯費等）		3万円
7	個人的な買い物		5千円
8	その他（ 観光 ）		5千円
9	留学に関する費用（1 から 8 の合計）		4万円
10	受給した奨学金（奨学金名： ）		
11	留学に関する費用総額（上記 9 から 10 を引いた額）		4万円

